

「認知症世界の歩き方実戦編」：笥 祐介（かけい ゆうすけ） 「自分が描いたストーリーが現実のものとして現れる劇場」【実戦編 創作劇場タイタニック】

－PART I 対話編：認知症の方が生きる世界を知り、言葉を交わし、関係を深める－

《この世界には、自分が思い描いたストーリーが現実のものとして現れる、脚本・監督を自分自身で楽しめる劇場があるのです。

この劇場で楽しめる演目は、奇想天外の一言。

タイタニック号から、ドローンで生還したり・・・。

貧しいシンデレラを救うはずの王子が公費を使い込んで逮捕されてしまったり・・・。。なんでもあり。

今日はどんな新しい名作ストーリーがこの劇場から生まれるのでしょうか？乞うご期待！》

◆ 記憶の喪失を埋める人間の創造性

(1) 記憶を補う想像力と創造力

【財布がない】

★自分は最近使った覚えがない、誰かが盗んだ以外に考えられない

想像・創造する⇒「泥棒が入ったのかもしれない」、「息子が黙って持って行ったかも」

「屋根裏部屋に住む妖怪の仕業？」

⇒本人の中では筋道が通っているのです。非難されると感情的になってしまう。

(2) 不安や焦燥感が生む否定的ストーリー

★ 認知症のある方の否定的な解釈や発言の奥には、実は大きな不安・混乱・苦悩、それらを周囲に理解してもらえない孤独感が隠れているのです。

太陽光を感知して体内時計のズレを整えるマスター時計の役割が機能しなくなるトラブル

★ 認知症のある方は、記憶や状況理解が曖昧になる中で、自分なりに必死に考え、理解しようと試みているのです。その結果、思いがけない相続的ストーリーが生まれるのです。

◆ 消えた？！財布の謎

夕食の買い物に行こうと思った布子さん。

いつもの置いてあるところに財布がない。同居の息子に聞いても「知らない」とそっけない一言。

その態度から、息子が盗んだと思い込んでしまい、大喧嘩に・・・。。数時間後、玄関の靴の中から発見されました。

次に、この出来事の中で、彼女が経験した認知機能のトラブルを推理してみましょう。

◆ 推理（認知機能障害のご本人の思いを推測する）

① 息子が盗んだ以外の理由が考えられなかったのでは？

⇒ 誤認を事実と思い込んでしまい、家族を疑うなど本人にとっても苦渋の決断で発する言葉。

② 不安・焦燥感から、息子の言動を否定的に解釈しまったのは？

⇒ 息子は嘘をついている。そういえば小さい時にお菓子を盗み食いしていた：そんなストーリーが出来上がっていたかもしれません

(注意) 攻撃的になり、家族に八つ当たりしていたのでは？といのは偏った考え方です。本人には何らかの理由があるはず。丁寧に話し、理由を推理しましょう。

◆ アイデア（トラブルに対するみんなで取り組むことができる具体的アクション）

① しばらく家に中を一緒にさがしてみる

⇒ 本人世界で起こっているストーリーを受け入れ、そのストーリーの背後にある本人の思いへの理解を深め、共に行動してみましょう。探しながら会話している間に、本人の感情が落ち着きを取り戻し、平常に戻る可能性があります。

② スマホで検索可能な忘れ物タグを貴重品につける

⇒ 貴重品などの現在地を探索できるスマートタグという商品があります。家の中など、近くにあれば、音を鳴らして探すことができます。離れた場所に置き忘れたしまった場合は、スマホやパソコンで現在ある場所を探すこともできます。

自分の大切なものを自分で管理するという心構えを持ち続けることは大切です。

③ 貴重品の保管場所を話し合い、分かりやすい場所に置くようにする。

(注意) 他人のせいにした事実を論理的に説明し、叱責する。⇒苦しみ悩んでたどり着いた結論を受けいること
お金を一切本人に渡さない、周囲が管理する。⇒本人の尊厳を損ないかねない

次回 思い出のタイムトラベルから、脱出できるか！【実戦編 アルキタイヒルズ】